

難病カウンセリング検定

「病気啓発」と「二次被害撲滅に向けての人権擁護」のために検定を行います。(無料)

日時 12月10日(日) 10時開場

場所 ルルサス防府多目的ホール
(防府市栄町一丁目5・1)

定員 50人

持参品 鉛筆(シャープペンシル可)、消しゴム、時計

11月20日(月)までに、ハガキ、FAX、Eメールのいずれかで、〒住所、氏名、電話番号を、防府市市民活動支援センター「難病カウンセリング検定」係(〒747・0035防府市栄町一丁目5・1) FAX 0835・24・7733
☒ info@ygm-support.org
☎ 検定委員会事務局 090・9066・4043

【講座】 NPO法人みらいプラネット
平成29年度難病カウンセリング検定
対象 どなたでも
とき 12月10日(日)午前10時30分～正午
【開場 午前10時】
ところ 市地域協働支援センター 多目的ホール
受験要領 検定は10分野からの出題です。8分野が選択式、2分野が記述式です。分野ごと7割以上正答で合格となり、合格者には合格証を可否発送時に無料で交付します。
参加費 無料 定員 50人【先着順】
持参物 鉛筆、消しゴム、時計(携帯・スマートフォンは不可)
申込み 市民活動支援センター気付
みらいプラネット「難病カウンセリング検定」係

朝日新聞

平成29年10月26日

7 市報やまぐち 2017年(平成29年)10月15日号

難病患者への理解深める検定

難病や難病患者のことをもっと知ってもらおうと、NPO法人「みらいプラネット」が12月から難病カウンセリング検定を始める。患者の心を傷つけずに寄り添う方法や、人権について広く知ってもらうことが目的だ。

NPO12月スタート

同NPOは、血管の病気「難治性血管奇形」の患者らでつくり、病気の啓発や社会的弱者への差別撤廃に向けた活動に取り組んでいる。検定は「患者心理とメンタルヘルス」などの10分野から計82問を、選択式と記述式で出題する。

選択式では、難病を患った職場の人に「しっかりと治してから出てきて」という言葉で治療に専念してもらいたいことや、職場復帰への期待を伝えるのは正しいか、といった問題が用意されている。記述式では「人権とは何か」といった問題への解答を求める。病を抱えるメンバーの実体験を盛り込みながら、臨床心理士や医師らの外部委員と共に作成した。

同NPOは、病気や心の悩みなどについての電話相談を受けているが、対応するメンバーは少なく、しかも、仕事をしながらの人がほとんど。相談に十分な時間が取れないことが課題になっている。検定を受けた人に相談員を手伝ってほしいという、呼びかけることも考えているという。

同NPOの有富理事長は「検定を通じて、社会的弱者の気持ちを考え、理解する人が増えてくれれば」と話した。

第1回検定は12月10日、防府市のルルサス防府で開かれる。無料。県内在住者が対象、先着50人。問い合わせは有富理事長(090・7970・1121)。(山本悠理)

トピックス

▽難病カウンセリング検定
12月10日午前10時半、防府市栄町1のルルサス防府で、難病の知識や患者との接し方を問う検

定が実施される。
難病患者の人権擁護などを行うNPO法人「みらいプラネット」(防府市)が主催で、今回

が初めての実施。問題は県内外の医師や臨床心理士らが作成した。選択式と記述式で、試験時間は90分間。

難病とされる病気の特徴や、治療法が確立されていないために根治が難しい患者に対し、不快な思いをさせない接し方など

について出題される。
無料で先着50人。住所、名前、電話番号を書いてファクス(0835・24・7733)で同法人「難病カ

ウンセリング検定係」に11月20日までに申し込む。問い合わせは同市民活動支援センター(0835・38・4422)へ。

読売新聞

平成29年10月21日

難病への理解深めて 初の難病カウ ンセリング検定

来月10日、防府市で

難病患者の支援団体、NPO法人県難治性血管奇形相互支援会（みらいプラネット）は、「難病カウ
ンセリング検定」を12月10日午
前10時半から防府市栄町の
ルルサス防府で初めて開
く。20日まで受験者を募集
している。

病気への不安や生活上の
差別などに関する相談が同
会に多く寄せられているこ
とから、難病患者ら弱者に
対する理解を深めてもらお
うと独自に開催する。検定
を通じて難病患者の生活に
寄り添うカウ
ンセリングの
スキルを身に付けることが
でき、合格者はポランティ
アとして活躍することが期
待されている。

待たれている。

難病とは何かや患者の気
持ちなど10分野から計82題
が出され、選択式と記述式
で回答する。制限時間は90
分。各分野7割以上の正解
で合格となり、3分野以上
で初級、5分野以上で中級、
8分野以上で上級、全10分
野でマスターとなり、それ
ぞれ合格証が贈られる。

県内在住者が対象。受験
無料。定員50名。申し込み
はみらいプラネット難病カ
ウンセリング検定係へ、は
がき（〒747-0035
防府市栄町1の5の1
防府市市民活動支援センタ
ー気付）またはフアクス
（08355・24・7733
3）、電子メール（info@yg-
rvm-support.org）で。問い
合わせは検定委員会事務局
（電話090・7970・
1121）へ。

山口新聞

平成29年11月16日

鴻輝新報「雄飛」

平成29年11月20日

平成29年度
難病カウ
ンセリング検定
検定日 2017年12月10日(日)
10:00開場 10:30開始
会場 ルルサス防府 多目的ホール
〒747-0035 山口県防府市栄町1丁目5-1 ルルサス防府2階
防府市地域協働支援センター内
定員 50名 申込締切 平成29年11月20日(月)
山口県民の方ならどなたでも受験できます。(受験料 0円)※お申し込みください
検定料 無料
○持ち物
鉛筆(シャープペンシル等) 消しゴム 時計(携帯・スマホは不可)
※受験料は0円ですが、途中退席可能です。(再入場はできません)



主催：難病カウ
ンセリング検定委員会
共催：NPO法人みらいプラネット(山口県難治性血管奇形相互支援会)、山口市、山口県教育委員会
後援：山口県、山口県教育委員会、防府市、防府市教育委員会、山口市、山口県教育委員会
お問い合わせ：検定委員会事務局 090-7970-1121

難病カウ
ンセリング検定のポスター

NPO法人みらいプラネット 平成29年度難病カウ ンセリング検定

- 日** 12月10日(日) 10:30~12:00
- 場** 防府市地域協働支援センター 多目的ホール
- 内** 【受験要領】
検定は10分野からの出題です。8分野が選択式、2分野が記述式です。分野ごと7割以上正答で合格となり、合格者には合格証を合否発送時に無料で交付いたします。
- 対** 山口県民の人ならどなたでも
- 人** 50名【先着順】 **¥** 無料
- 持** 鉛筆、消しゴム、時計(携帯、スマホは不可)
- 申** 防府市市民活動支援センター気付
みらいプラネット「難病カウ
ンセリング検定」係



防府市まなぼらサポート
平成29年11月1日

◇平成29年度難病カウ
ンセリング検定(ポスタ
ー掲載) 12月10日(日)
て主に山口・防府地域。そ

午前10時30分~12時(開
場10時)、山口県防府市栄
町のルルサス防府多目的
ホール。定員50人。山口県
民なら誰でも参加できる
が会場経費の都合上先着
50人。今回は第1弾とし

の後岩国、柳井、周南、宇
部、小野田、下関、長門、
萩地域など会場を変えて
実施予定。参加無料。申
込締め切りは11月20日
だが1週間程度は猶予を
持たせる。官製はがきF
AX、メールで住所、氏名、
info@yg-rvm-support.org(0
90・90666・4043)

NPOみらいプラネットが初開催 難病カウンセリング検定 56人が挑戦



老若男女の56人が検定に挑戦した

難病患者や社会的弱者に関する知識などを問う「難病カウンセリング検定」が10日、栄町のルルサス防府で開催された。県内の小学4年から71歳までの56人が参加し、90

分にわたって「弱者心理」などの10分野の出題に挑戦した。参加者に難病患者や社会的弱者への理解を深めてもらおうと、NPOみらいプラネット(県難治

性血管奇形相互支援会)が初めて企画。今後も年1回の開催を予定しており、多くの人が検定を受け、多くの人が検定を受けることで支援の輪の広がりを期待する。検定は分野ごとに7割正答で合格となり、3分野以上の合格で初級、5分野以上で中級、8分野以上で上級、全問正解でマスターの称号が贈られる。今回は参加者の8割以上が初級、中級に合格したという。

同会の有富健理事は「合格率が良かった。これだけ多くの人が検定を受けてくれて、関心が高いことが分かって嬉しい。今後も多くの人に参加してもらい、理解を深めてもらうことで差別や偏見をなくしていきたい。そして、カウンセラーのような役割が出来る人が増えていけば」と話していた。(山本裕貴)

ほうふ日報

平成29年12月16日

山口新聞

平成29年12月12日

防府で難病カウンセリング検定

小4~70歳、56人挑む

難病患者への対応力や知



識などを問う「難病カウンセリング検定」(同検定委員会主催)が10日、防府市のルルサス防府で初めて行われ、県内の小学4年生から70歳まで計56人が臨んだ。

検定は90分。「患者心理とメンタルヘルス」など10分野から計82問を出題し各分野の正答率7割以上で合

「難病カウンセリング検定」に臨む受験者10日、防府市

格。全て合格すると「マスター」を取得できる。中学生の子ども2人と受験した山陽小野田市の坂江佳代子さん(40)は「専門的なものもあり難しかったが、困っている人を助けられるよう役立てたい」と話した。

同検定は、病気の啓発や患者を支援する方法を広く知ってもらおうと、NPO法人みらいプラネット(県難治性血管奇形相互支援会)が企画。病を抱えるメンバーの実体験も盛り込み問題を作った。今後も年1回開く予定。

同NPOは病気などに関する相談を受けているが、メンバーの多くが働まながら対応しており、マスター取得者にはカウンセラーとして活動を支えてもらう考え。有富健理事は「良かれと思って掛けた言葉が傷つけてしまうこともある。検定を通して、相手の立場で考える癖を身に付けてもらいたい」と話した。

「難病検定」予想超す参加者

防府で56人、来年以降毎年開催へ

難病や難病患者への理解を深めてもらおうと、NPO法人「みらいプラネット」が10日、初めての「難病カウンセリング検定」を防府市で実施した。予想を上回る参加があり、来年以降、毎年検定を実施することにした。

NPO「患者への理解の広がり」期待

みらいプラネットは、動脈や静脈、リンパ管などがうまく形成されずに体の様々な部位が痛んだり、腫れたりする「難治性血管奇形」の患者らでつくるNPO。病気の啓発や社会的弱者への差別をなくす活動などに取り組んでいる。

難病カウンセリング検定は、みらいプラネットが創設した。病を抱えるメンバーの実体験を盛り込みながら問題を作り、選択式と記述式で、患者への寄り添い方や人権への考え方などについて尋ねた。

「患者心理とメンタルへ

ルス」などの10分野中、合格点に達した分野の数に応じて初級、中級、上級に区分。全分野で合格点に達すれば「マスター」となる仕組みだ。

「マスター」になった人には、みらいプラネットが受け付けている、病気や心の悩みへの相談に対応するメンバーに加わってもらうよう呼びかけることも検討する。

NPO理事長の有富健さんによると、検定には定員50人のところ、小学4年生から70代までの56人が参加。8割の受検者は初級以上の成績だったという。

有富さんは「みなさんの関心が高く、とてもうれし。受検者が増え、社会的弱者への理解の輪が広がれば」と期待している。

(山本悠理)



10日に開催された第1回検定では、参加者数が想定を上回った。防府市、みらいプラネット提供

朝日新聞

平成29年12月14日

難病検定で患者理解を

防府 NPO が初実施 56人受検



初の難病検定に臨む受検者たち

難病に関する知識や患者への適切な接し方などを問う「難病カウンセリング検定」が防府市で行われた。患者らで作るNPO法人「みらいプラネット」（防府市）の企画で、今回が初めての実施。同NPOは「検定を通じて難病についての理解が広まれば」と期待している。（江口武志）



有富健さん

みらいプラネットは原因不明の難病「難治性血管奇形」の患者らが2012年に発足。同NPO理事長で県職員の有富健さんもこの病に苦しんできた。

有富さんは01年から原因不明の体調不良に悩まされるようになった。病院に通ったが、病名が分からず、ようやく10年に、体内の血管がねじれた

り絡まったりする「難治性血管奇形」であることが判明した。病名が分かるまでの間、当時の職場の同僚から「そんな症状の病気はない」「早く治せ」などと言われ、傷ついていた。「傷つく患者を一人でも減らすために、難病患者への正しい接し方を学んでもらいたい」と検定の実施を決めた。

知識や接し方など82問

検定は難病の性質や患者の心理などの10分野で、「企業が行うべき難病患者への配慮について」などといった計82問を出題。選択式と記述式で回答する。問題は同NPOの会員や県内外の医師、臨床心理士ら計18人が約3か月かけて作った。各分野とも正答率7割を超えると合格。3分野以上で合格すると初級、5分野で中級、8分野で上級、全10分野でマスターとしてそれぞれ認定され、合格証が与えられる。

防府市のルルサス防府で10日に行われた検定には、小学

生から70歳代の56人が挑んだ。山口市陶のパート従業員、岩崎則子さん(71)は「想像以上に難しく、患者の心理を理解できていないと感じた。また受検してみたいと語った。同NPOは今後、検定を年に1回程度実施する予定。受検希望者が増えれば、さらに回数を増やすことも検討している。

また、マスターとして認定された合格者には、同NPOの相談業務を委託することも考えている。有富さんは「つらい思いをしている社会的弱者に寄り添える人が増えてほしい」としている。